

令和4年度 岩手県立総合教育センター運営協議会・会議の概要

1 日時

令和5年2月16日（木） 13:30～15:30

2 場所

総合教育センター 第1研修室

3 出席委員

阿部 久幸 委員、佐々木 伸良 委員、横澤 修 委員、坂水 かよ 委員、湯川 宏胤 委員、
佐藤 勝 委員、鈴木 久米男 委員、市川 尚 委員、藤原 忠雄 委員、阿部 一郎 委員、
恒川 かおり 委員

（以上11名）

4 出席者

村上 弘 所長、村井 琢巳 総務部長、杉本 光生 研修部長、横田 昌之 支援指導部長、
岩井 昭 学校教育参与ほか各担当総括等の職員

～ 以下、会議の概要 ～

5 協議事項

(1) 令和4年度総合教育センターの事業等について

(2) 令和5年度以降の研修について

- ・「令和の日本型学校教育」を担う教師の研修について
- ・研修履歴の管理に関して
- ・研修体系について

(3) 情報活用能力体系表について

(4) 新型コロナウイルス感染症対策等について

(5) その他

○ 令和4年度総合教育センター事業について

〔説明〕

- ・研修事業は、昨年度に引き続きコロナ過での研修となったが、感染予防対策の徹底を図り集合型の研修も予定通り実施することができた。
- ・研修者の声として、オンデマンドでの事前視聴についても概ね高評価だったが、勤務時間内での視聴が難しかったとの声も一部にあったため、今後も講座の特性を踏まえた実施形態を検討して、ニーズに対応していきたい。

・研究事業について、本年度は主題研究として大きくICT研究が1本あり、その中の校種・教科別の実践研究を9本実施している。2年間の実践研究の成果として、ICT実践事例集にまとめ、現場に普及していく予定である。

・長期研修性の研究は、「中学校外国語化(ICT)」と「中学校特別支援」、「特支肢体不自由」の3本である。

・教育研究発表会は、2月9日に花巻温泉を会場に講演会と学びの改革研究の発表会を集合型とライブ型で行った。2月10日は各分科会を教育センターと生涯学習推進センターで行った。2月17日から3月2日まで、オンデマンドで動画配信する予定である。

・昨年度は集合型は行わずライブ型とオンデマンド型のみであったが、本年度は集合型、ライブ型、オンデマンド型のハイブリッドで行った。来年度以降は、花巻温泉は使わずに教育センターと生涯学習推進センターを会場に、さらに工夫をして実施していきたい。

◎ 各委員からの意見・質問等

[質問]

・教育相談事業は、子供、教員、保護者の別で言うと、どういう方々を相手に実施しているのか。

[回答]

・子供からくることはあまりなく、保護者や先生が子供について相談にくるケースがほとんどである。学校から紹介されてくることが多い。

[質問]

・要請研修の「その他」とは、指導改善研修に繋がるような内容のものか。

[回答]

・学校からの要請に基づいて、指導改善研修に至る前の段階でセンターから指導や支援を行っているものである。

[質問]

・免許状更新研修がなくなり、今後は校内研修が大事になってくると思うが、センターにおける研修や研究の成果がWebで情報発信されているのか。

・データベースによる情報発信について、資料に記載されている学習指導案以外に各学校の研究についてテーマや成果がデータベース化されているのか。

・情報共有サイトの活用の在り方をどう考えているのか。

[回答]

・センターの研修については、Webで公開している。

・データベースによる情報発信については、学校公開実施校に対し、学習指導案以外の提出は求めている。

・情報共有サイトについては、主に研修に関する資料等を学校に対し配信している。

・東京都のような研修の根拠や研修の履歴については、現在、別途国においてシステムを構築中であり、令和6年度から本県でも当該システムを導入する予定である。

[意見]

・各校の指導案については、研究テーマや活用方法等によりカテゴライズした上で、キーワードにより検索できるようにすれば活用が進むと思われる。

○ 令和5年度以降の研修について

〔説明〕

- ・教員免許更新制の発展的解消により、岩手県独で実施してきた授業力向上研修は廃止され、今年度は法定研修である中堅教諭等資質向上研修のみ実施した。
- ・「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿が示されたが、そのキーワードは、「学び続ける教師」「個別最適な教師の学び、協働的な教師の学び」「学校管理職が教員との対話を通じ、計画的かつ効果的な研修の受講を奨励」となる。
- ・個々の教師には、自ら主体的な学びのマネジメントをすることが求められ、管理職にはそれを支え、奨励していくことが求められることになる。
- ・研修履歴の記録が明記されており、教師一人ひとりの研修履歴を管理職と共有しながら、必要な研修を自ら選んで受講していくことになる。
- ・文部科学省から提示される予定の研修受講履歴記録システム(仮称)が、令和6年度から本県でも導入する方向で進んでいるが、県内の公立学校教員の履歴がこのシステムで運用される予定である。令和5年度については、本県独自で作成したエクセルシートで履歴の管理をする予定である。
- ・システムの詳細は未だ明らかになっていないが、教職員支援機構が大きく関わりながら、3つの仕組み(学習コンテンツの質の保障、各種研修のプラットフォーム、履歴の可視化と照明)を一体的に行うことが想定されている。
- ・新たな教師の学びの姿が示されたことに伴い、全国全ての都道府県や政令指定都市において育成指標の今年度のものに改定がなされている。各教員がこの指標を参考にしながら自律的に研修に向かうこととなる。
- ・免許更新講習が廃止され、30代の中堅研以後の研修の機会がなくなったが、元々主体性が足りない教員がさらに主体性を減退させる可能性があるため、40代と50代においてステージアップ研修を設けることとした。それぞれ4日間の研修を行うが、教員がそれぞれの研修テーマを設定した上で、それに合う内容を大学の講座や校内研修などから選択できることとした。受け身ではなく、自ら主体的に研修する意義を重視したものである。

○ 情報活用能力体系表について

〔説明〕

- ・センターでは、学習指導要領総則に記載されている、学習の基盤の一つである「情報活用能力」の育成のために、岩手県の実態に応じた体系表を作成した。
- ・作成に当たっては、先進地区の体系表等を参考に、岩手の児童・生徒にどのような情報活用能力を身につけさせていくのかを検討し、その結果、資質・能力を3つの柱で分け、想定される学習内容毎に分けた体系表例を作成した。
- ・今後は、センターのホームページやユーチューブ動画配信、各種研修講座等で、この体系表例を県内の児童の情報活用能力の育成に活用していきたいと考えている。

○ 新型コロナウイルス感染症対策等について

〔説明〕

- ・資料は、現時点での対策として発信しているものである。最初の流行の時期からその時々々の客観的なデータや社会的情勢等を踏まえて、センターとして望ましい対応をその都度設定してきている。

- ・県の緊急事態宣言が発出された場合に備えて、通常版と緊急事態宣言版の2種類の要項を予め研修者に示しながら、現場の先生方が混乱しないように対応した。
- ・今後も世の中の状況を把握しながら、その都度ふさわしい対応を徹底して、研修者にとって安心できる環境を整えていきたい。

◎ 各委員からの意見・質問等

〔質問〕

・先日の研究発表会をオンラインで見たが、1人分のIDとパスワードを取得して大勢で視聴することは違法ではないのか。

〔回答〕

・法的な制限はないと思われる。各学校がサテライト会場みたいな形になるが、是非そのような形で視聴してほしいと考えている。

〔意見〕

・20代、30代のうちは意欲的に取り組んでいても、40代、50代になると意欲が失われていく人がいることが大きな問題と考えている。生徒が多様化している中でそれに対応する教師も常にアップデートが必要である。

〔意見〕

・情報活用能力体系表に特別支援学校を入れることは難しいと思うが、別途、いろいろな情報がみられるようなものがあれば有難い。

・最近教員不足（特に理科や工業系）が問題になっているが、解消のためには高校生のうちに岩手の教員を目指すよう呼びかける必要がある。センターには工業の機械や理科の実験機器があるので、それらを活用して高校生を対象にした実習や研修の機会があれば良いと思う。

〔回答〕

・情報能力体系表は、未来に向かっていく子供達に情報活用能力の何たるかを伝えるための目安として作成したものである。特別支援的な要素が入っていないとの指摘があったので、今後は検討していく必要があると思う。4月に間に合うようにセンターのホームページに掲載する予定となっており、その際はセンターで実施した校種毎の実践事例も載せるつもりである。その中に特別支援の事例も含まれる予定である。

〔意見〕

・幼児教育の中でも、「学び続ける教師」と「研修履歴の記録」を課題と捉えている。今回の指標や研修履歴の話の中に幼児教育が含まれていないが、思考力や判断力を養う上で幼児教育は基礎となるものであり、幼児教育から繋がっていくことが令和の日本型教育になるのではないかとと思われる。

〔回答〕

・県の幼児教育センターにおいて、「学びのらしんばん」という幼児教育版の指標を作成中であり、間もなく公表されると思う。

・履歴に関しても、幼児教育に携わる先生方にも必要だと思われるので、県の幼児教育センターに伝えたいと思う。

・令和5年度からセンターにおいて就学前教育の管理職の方々を対象とした研修を7月11日に実施する予定であり、その場において今の話の回答が示せるよう情報共有したいと思う。

〔意見・質問〕

・センターが先生方だけのためのものではなく、生徒や保護者のためのものでもあるのなら、未だ周知されていない部分が多いのではないかと感じた。センターを知らない一般の方が多数いるのではないかと思われるので、各学校のホームページにリンクを張ってもらうなど、もう少し周知が必要と思われる。

・研修履歴は本人のみが見られるものなのか。同僚や管理職も自由に見られるようになるのか。

・研修のカリキュラムは、勤務時間内で行っているのか。

〔回答〕

・履歴の目的は研修の可視化を図るものである。自身の研修の振り返りと管理職との共通理解のためのツールとなるものである。また、履歴を管理するために各教育委員会やセンターの職員が閲覧することになると思うが、その際のルールについては今後において定められるものである。

・センターの研修は、教員が勤務する上で必要となるものなので、勤務時間内に行っているものである。

〔質問〕

・研究発表会について、テーマ毎の分散開催や部分集合など、開催方法の可能性を今後検討する予定はあるか。

・研修履歴について、自身の成長とともにどの研修を選択していくのかといった長期的なもの、管理職との面談などの際に想定される目標管理シートのようなものとの組み合わせなど、長期と短期の組み合わせをどのように考えているか。

・育成指標について、他県では幼稚園教諭や事務職員又は管理職なども詳細に定めているところもあるが、本県においても今後、それらを別業にして詳細なものを作成していくことになるのか。

〔回答〕

・研究発表会について、全体会では県内の各学校が分散会場となって展開できれば岩手の教育界全体が盛り上がるかなというイメージは持っているが、分科会については数も多くて、今のところは個々の端末で見ってもらうことしか考えていない。

・研修履歴については、令和6年度からの実施となり、今後も節目において文部科学省から説明があると思うが、委員が話された視点は必要なことと思われるので、今後の説明会の際に確認しながら意見を述べていきたいと思う。

・育成指標については、教員免許状更新制度が廃止されて未だ間もなく、各都道府県でも指標の改定に追われているところであり、本県でも現時点では本指標案を完成させることで精一杯のところである。委員の意見を今後活かしていきたいと思う。

〔意見・質問〕

・オンラインは強みになる部分があると思うので、継続的に使ってほしい。また、オンデマンドのコンテンツをどのように蓄積するのか見当が必要と考える。

・情報活用能力体系表は絶対に必要と考えていたので、センターが整理してくれたことは良いことだ。また、情報活用能力は時代の流れによって変わっていくものであり、内容を更新していく必要があると思う。

・世の中が変わってきている中で、センターも改革している部分があると思うが、何か紹介してもらえればと思う。

〔回答〕

- ・研修履歴とともに質の良い研修コンテンツをセンターで取り入れていくような視点も出ているので、検討してみたい。
- ・改革という点では、コロナ対策や遠方からの研修者のために、研修の一部をオンデマンドで配信し事前に視聴することにより研修の開始時刻を遅らせることを行った。事前の視聴が難しい研修者のためにセンターでの視聴も選択できるようにした。また、研修者がオンデマンドを視聴したことを確認するためのアンケートや小テストをチームズで実施した。今後も継続しながらより良いものにしていきたい。

〔質問〕

- ・最近の物価高により困窮している家庭もあると思うが、それが原因で不登校などの相談が発生していないか。
- ・情報活用能力の育成ということだが、どのような人材を育成しようとしているのか。どのくらいのレベルを目指しているのか。

〔回答〕

- ・元々ある経済的な相談は何件かあるが、最近の物価高による相談は今のところない。

〔意見〕

- ・学校に出向いてキャリア教育の支援活動を行っているが、活動を通じて、教員と社会との認識のずれが大きいと感じている。子供達にも影響を与えているのではないか。お詫びや感謝の言葉が足りない教員が多く、研修が必要であると感じている。
- ・時代が変化していく中で、全ての教員がマルチになる必要はないと考えており、お互いに得意な部分を教え合うなど、補い合って組織として充実していけば良いのではないか。フォロアシップを育成するような研修があっても良いと思う。

〔回答〕

- ・管理職が個々の教員をどのように育てたいか、ビジョンを持って組織を運営していくことが大事であると感じている。

〔意見〕

- ・先週の研究発表会は非常に効果が大きかったと思う。
- ・センターホームページの中の教育コンテンツに入り易くなるよう工夫してほしい。
- ・研修履歴は、単に記録するだけでなく、どのような研修を受けていくのかを考えていくことが大事であると感じた。